

# 日本音楽療法学会四国支部 ニュースレター

2019 秋号

## ご挨拶

2019年10月

四国支部会員の皆様

やっと涼しくなってまいりました。先月は大阪中之島、大阪国際会議場で日本音楽療法学会近畿大会が開催されました。四国からは近い大会になりましたし、有意義な3日間が過ごせたのではないのでしょうか。私もたくさんの支部会員と会うことができ、みんなと「今年はなんて楽な参加！楽しめる。」を合言葉のように交わしました。昨年の怒涛の日々、何べん言っても実感がこもる、お疲れさまでしたね。

さて、今年度から支部運営に12名の役員が加わり、このニュースレター制作、HP制作、来年1月12日の支部大会（徳島で開催、詳しくは同封の支部大会案内をご覧ください。）等、忙しく働いてくれています。どうぞ新しい支部の動きに注目ください。若い力を応援、期待、よろしく願いいたします。

四国支部長 三崎めぐみ

事務局 〒769-0303 香川県仲多度郡まんのう町七箇 2616-1 栗田京子気付

TEL : 090-8979-7499 FAX : 0877-77-2136

E-mail : sikoku.mt@gmail.com

ホームページ <http://www.jmta-shikoku.sakura.ne.jp> (近日リニューアル)

Facebook ページ内で



## 第14回日本音楽療法学会四国支部学術大会開催のお知らせ

日時：2020年1月12日（日）10：00～16：00

場所：あわぎんホール（徳島県郷土文化会館、徳島駅から徒歩7分）

内容：教育講演1 龍尾和幸 先生

「育ちの場は母親の胎内のように」

教育講演2 吉田勝明 先生

「音楽療法士に必要な認知症疾患の基礎知識」

参加申し込み締切日：2019年12月5日（木）

演題受付期間：2019年10月7日（月）～10月31日（木）必着

連絡先：[jmta.tokushima@gmail.com](mailto:jmta.tokushima@gmail.com)（事務局）

電話：090-4786-0781（和田津）



※詳細は同封の「第14回日本音楽療法学会四国支部学術大会のご案内」をご覧ください

## 四国四県の研究会

### 香川音楽療法研究会

代表者：会長 三崎めぐみ

連絡先：Kagawa.rs.mt@gmail.com

### 音楽を紡ぐ里・フロイデ

代表者：小川昌代

連絡先：(TEL)0877-23-8999

(携帯)090-2788-2221

### こうち音楽療法研究会

代表者：公文淑江

連絡先：kochi.ongaku.ryoho@gmail.com

### 西瀬戸音楽療法研究会

代表者：会長 藤井澄子

連絡先：fujii-sumiko2698@catherine.ac.jp

## 認定講習会

2019年10月以降の学会認定講習会についてお知らせします

### ◎香川音楽療法研究会

場所：香川県ふじみ園

日程：11月10日 13:00～ 児童領域 糟谷由香先生 会員2000円 非会員3000円

1月19日 13:00～ 障害児領域 幸田和代先生 会員1000円 非会員2000円

3月8日 13:00～ ピアスーパージョン 三崎めぐみ先生 会員1000円 非会員2000円

### ◎音楽を紡ぐ里・フロイデ

場所：野の花生活介護内 音楽療法室フロイデ

日程：10月20日、11月17日、12月15日、1月9日、2月16日 10:30～13:30

2019年度音楽療法基礎講座 児玉令江子先生 1回4000円

### ◎こうち音楽療法研究会

場所：総合福祉施設 ヘリオス

日程：10月13日 13:00～ ピアスーパージョン（児童領域） 研究会会員のみ参加可

11月10日 13:00～ ピアスーパージョン（成人・高齢者領域） 研究会会員のみ参加可

## 「レナードの朝(原題 Awakening)」

1990年 アメリカ

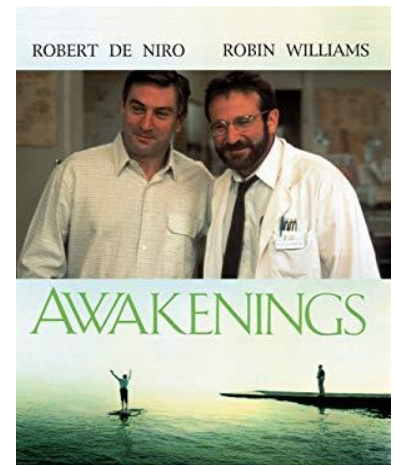
原作は医師オリヴァー・サックス著作の医療ノンフィクションで、映画は監督ペニー・マーシャル、主演はロバート・デニーロ、ロビン・ウィリアムズで1990年に公開されました。

人生や病気、命と尊厳、医療と福祉、家族とは…などさまざまなことを考えさせられるストーリーです。名俳優二人のすばらしい演技も相まって、エンディングは悲しみの中にあたたかい感動があり、涙があふれてきます。

レナード・ロウ（ロバート・デニーロ）は11歳の時に嗜眠性脳炎を発病し、意識はあるものの半昏睡状態で30年の歳月を病院で過ごしていました。慢性神経病患者専門のベインブリッジ病院に赴任したマルコム・セイヤー（ロビン・ウィリアムズ）は、患者が反射等では行動できることを発見、治療や訓練に心血を注いでいきます。治療を進める中で、パーキンソン病患者に対する新薬（L-ドーパ）に目をつけたセイヤーは、上司に懇願し投薬を始めると、まるで奇跡が起こったかのように次々と症状が改善していきます。しかし薬の投与を続けていくうちに症状が再発しはじめ、セイヤーは医師として、自分のしたことは間違いだったのだろうかと悩みます。

対象者の可能性を信じること、生活歴を参考にしてその人らしさを引き出すこと、病名ではなくパーソナリティに注目すること、表出も動きもない対象者との関わり方…映画の中には臨床におけるヒントがたくさん散りばめられています。

音楽を使った場面も出てくるので、秋の夜長に、ぜひご覧ください。



レナードの朝

### 編集後記

このニュースレターは、新たに組織化された広報委員会が手掛ける初めての仕事でした。四国四県に散らばっている6名の委員の意見を集約するのは、LINEと大阪での学術大会でした。委員一人ひとりがすこしずつ仕事を分担し、協力して仕上げました。さすが音楽療法士の集まりです！見事なチームワーク！

新しいホームページへの移行やSNSの構築と合わせて、会員の皆様に迅速で正確な情報をお届けするだけでなく、日頃の音楽療法活動に少しでもお役に立てるよう、委員一同意欲を燃やしております。どうぞ、ご期待下さい！